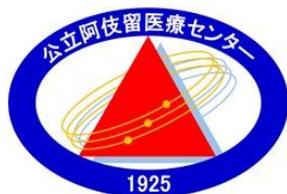


# あゆみ



公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

## アキル医療センターで NCPR 講習会が始まる!!

### 院内トピックス

診療部産婦人科部長 高田 眞一

胎児が分娩という厳しい関門を通過して新生児になる瞬間から、「おギャーと元気に泣くか!!」、「早く泣け、バタバタ動け!!」と分娩室の誰もが願い、エネルギーの大半を注いで行う手技が新生児蘇生法 NCPR です。新生児仮死は予測困難であり、生命への危険性や後遺症のおそれもありますが、適切な人工呼吸などによってその予後は劇的に改善されることが知られています。

日本周産期・新生児医学会は、「分娩に立ち会う医療スタッフが標準的な新生児蘇生の理論と技術を習熟する」ことを目的とした普及事業として NCPR 講習会を2007年から開始しました。

都内でも、大規模な周産期施設や大学病院で講習会が行われ、年々参加者も増加してきましたが、コロナ禍における行動規制のため講習会の規模と回数が半減し、外部からの受講が厳しく制限されました。そのため院内の希望者が受講できる機会がなくなり、しかも西多摩地区では開催する医療機関がないため、講習会を全国規模で探し回る悲惨な事態に陥りました。

令和3年になってもコロナ禍の収束が見通せないため、自施設で開催を切望・模索していた頃、講習会の開催資格を持つインストラクター医師の好意で、自施設開催が可能になり、その気持ちがこもった表題の案内状になりました。初回開催は、令和3年5月に病院講堂で行い、以後、今年10月までの1年半で8回企画し、新型コロナウイルス感染拡大で3回中止になりましたが、5回開催でき、院内外36人（医師11、助産師8、看護師17）の参加がありました。

NCPR講習会の対象は、周産期施設に従事する職種ですが、当センターでは周産期以外の領域に従事する看護職にも参加を勧めるという取り組みにより、NCPRを修得する意義への認識が広まることで、NCPRの院内普及が進むと企画しました。この趣旨が病院からご理解を得て、施設的にも、予算面でも力強い支援を受け、他の講習会では、参加費が一人1万円前後であるのに対して当センターでは個人負担ゼロを維持できました。

これらの経緯を本年11月に沖縄で開催された「第60回全国自治体病院学会」で助産師の岩丸美奈さんが発表し高い評価を受け、また西多摩地区の他の施設からも大きな注目を集めました。話が長くなりますので、詳細は別の機会にご報告します。ご期待ください。



公立阿伎留医療センター報 あゆみ

第126号 令和4年(2022年)12月

- ◆発行日 令和4年12月19日
- ◆発行所 阿伎留病院企業団/公立阿伎留医療センター
- ◆発行人 根東 義明
- ◆編集 公立阿伎留医療センター  
年報及び医療センター報等編集委員会  
委員長 井上 理恵  
〒197-0834 東京都あきる野市引田 78-1  
URL <http://www.akiru-med.jp>  
電話 042-558-0321 (代)
- ◆印刷所 株式会社 アサヒ